

# 和歌山県立はまゆう支援学校 学校運営協議会

令和3年度 第2回 【12月17日】10:00~11:30

出席者：委員 9名 傍聴者 4名

## 会議の流れ

- ① 学校運営協議会会長挨拶
- ② 学校長挨拶
- ③ 日程説明
- ④ はまゆう作品展見学
- ⑤ はまゆう支援学校高等部の取組報告
- ⑥ 質疑応答
- ⑦ 意見交換
- ⑧ その他
- ⑨ 閉会の挨拶（学校長）

## 概要

### 【議論した主な内容】

- ① 学校運営協議会会長挨拶（代理：副会長が挨拶）
- ② 学校長挨拶
- ③ 日程説明
- ④ はまゆう作品展見学  
岩田公民館多目的室で作品展を見学
- ⑤ はまゆう支援学校高等部の取組報告
  - 全国高等学校総合文化祭和歌山大会特別支援学校部門活動報告  
《ビデオメッセージ》  
メッセージ甲子園「全国のみなさんにおおきにを伝えよう」をテーマに、  
はまゆう支援学校で作成した「バトンでつながろう ありがとう」のビデオ  
メッセージの視聴
  - 《楽器演奏》  
「鬼滅の刃」の演奏を視聴
  - はまゆう支援学校高等部生徒会活動報告  
《高等部生徒会より》
    - ・第1回県内生徒会総会の報告  
テーマ「気持ちの良いあいさつを広げよう！」  
「コロナで楽しい行事が減った。笑顔を取り戻そう！」
    - ・はまゆう支援学校生徒会の取り組み  
4つの笑顔を大切にした取り組み
      - ①あいさつ運動に笑顔を！
      - ②南紀支援にも笑顔を！
      - ③マスク越しの笑顔を！
      - ④ホメホメ表彰状で笑顔を！
- ⑥ 質疑応答及び感想

〈質疑応答〉

○今日の発表に向けて、たくさん練習されましたか？

- ・ 数回練習した。

○取り組みの中で難しかった点などありましたか。

- ・ マスク越しの笑顔をみなさんから引き出すことが難しかった。全員がカメラを向けると笑顔になるわけではなくて、こちらから笑ってみるなど工夫が必要であった。

○一人ひとりが楽しいと思うところを教えてください。

- ・ 後輩や先生たちと話して楽しい。
- ・ 先生や友だちと野球の話をしているときは楽しい。負けたときは悔しいと思う気持ちは同じなので、友だちと気が合うと楽しい。
- ・ 昔は話すのが苦手だったけど、今は友だちとよく話している。
- ・ 最初は緊張したが、入学して2年が経って、昼休みに先輩や後輩、先生方と話ができることが楽しいと思える瞬間になっている。

○もし、高校生が喜んでもらえる活動をするとなれば、どんなアドバイスをしてくれるのか。

- ・ 交流をすると仲良くなるのではないかと思う。
- ・ 縫いぐるみ着て小さい子どもさんを教室まで連れて行く等、何か喜んでもらうために工夫する。
- ・ 僕たちはぬいぐるみを着るなど、喜ばれることを考えたが、風船を配付している学校もあった。
- ・ 校長先生と教頭先生が出演してあいさつ動画をつくっている学校もあった。

〈感想〉

- ・ 先生と相談しながらどうやったらベターなものになるか、考えることができた取り組みであった。
- ・ 学校が楽しいと思ってもらえる活動をいろいろと工夫されている。
- ・ やってみたいことに巡り会える機会があること、やってみたいことを口にできること、また、実行できていること、「相談してみたい」と言えることが素敵である。
- ・ これから社会に出るにあたって、前にでて話す機会は貴重で、きっと役に立つはずである。はじめは緊張しても慣れてくる。これから南紀支援学校と統合するが、PTAとしても一緒にできる取組を考えていきたい。
- ・ はまゆう祭に行ったことがないという南紀支援学校の保護者の方もおられる。模擬店をやってほしいという願いも聞いている。これからも協力してがんばってほしい。
- ・ 子どもたちが熱があっても「学校に行きたい」という理由が、生徒会のみなさんが楽しい活動を考えてくれているからだと分かった。
- ・ 上富田町役場で働いているので町のことを考えている。発表していただいた笑顔のあいさつ運動、とてもいい取り組みだと思う。上富田町で働いて、住んでいるが、この取り組みが町全体に広がったらいいと思う。
- ・ 小さい子どもからお年寄りの方まで巻き込んでできるといい地域になる。
- ・ 上富田町として、はまゆう支援学校からパワーで後押ししてもらいたい。
- ・ アドベンチャーワールドは、「スマイル」、笑顔を決やさない、みなさんがハッピーになることをモットーにしている。
- ・ 企業に入って働きはじめるとういうことを忘れるので、会社に入られても笑顔を大切に、上司にこの取組をぜひ報告してほしい。
- ・ 素敵な発表でした。はずかしい、てれくさい、めんどうくさい、を乗り越えた取り組みである。何かをやっていくにはやっかいな感情だが、どうい

- う風に折り合いをつけて社会に出て行くか、自分の人生を豊かにしていく上ですごい大事になる。それをはまゆう支援学校のなかで体現できている。
- ・楽しむためにいろいろなことにチャレンジするという精神を大事にやってほしい。

⑦ 意見交換

- ・作品展見学させてもらい、毎年毎年型にはまらないスケールの大きさは、はまゆうらしい。
- ・クオリティーが高い作品をたくさん作っている。
- ・生徒会の報告もあったが、大人の会議に入ってあれだけのことを言えるのが素晴らしい。感動したし、立派であった。
- ・統合に関わって、色んな課題もあるが、PTAとしてもがんばっていききたい。
- ・今年、会社の管理職を連れて学校見学実施しているが、いつも帰るときは、無言で、感銘を受けているし、いろいろと学ばせてもらっている。
- ・運営協議委員さんには地域と学校の中継ぎをしていただきたい。
- ・はまゆうと地域とのご縁が少ないので、もったいない。学校間のつながりがどれくらいあるのかわからないが、知られていないことが多い。エバグリーン清掃活動など取組を知ってもらいたい方法を探っていきたい。
- ・南紀支援学校との統合後、地域とのつながり、地域連携が中心になってくる。地域連携の見通しをもっておくことは大切である。
- ・統合校舎の状況は、西側校舎が完成し、令和4年1月に引越作業を予定している。統合は、令和5年4月で、校舎完成は、令和5年9月30日の予定である。
- ・地域の方々には校舎のできあがりを見ている。期待感を明確化する取組を地域と共有していくをお願いしたい。
- ・地域がキーワードになるのは、上富田町も同じ課題である。工夫が必要になる。
- ・学校と地域、垣根を越えた発信が必要になる。公民館を中心に交流を考えていたが、コロナ禍でストップした時に、学校からの地域の方への情報発信が必要になる。
- ・学校間連携においては、上富田町の小・中と連携し交流する等、次のステップに進めたい。
- ・物作り等を通して、今後成長していくなかで活動の幅を広げてほしい。
- ・地域への発信は、難しい課題であるが、協力して一緒に取り組んでいきたい。
- ・地域に知ってもらうには、見てもらうことが必要になる。目に触れたり、知っていたりすることが理解の一歩になる。
- ・学校開放については、コロナ禍でもあり安全面に配慮した限定した形で行っていく。来られる方を集約したり、ゲストティーチャーの対応を考えたりしながら依頼していく。
- ・知的障害の子どもたちと肢体不自由の子どもたちが同じ空間で過ごしていくには、お互いを理解することからはじまる。みんなが初体験なので、実態把握して、安全安心で、深い学びができる仕掛けも考えていきたい。
- ・震度4の地震対応では、全員が運動場へ避難した。安全を確認できたが、マニュアルどおりにはいかなかった。防災安全部を中心に、修正をし職員に周知した。ライフラインの寸断、ガスがストップしたので、給食提供への課題も分かった。
- ・どのレベルで避難するのかの判断が難しかったが、基準を確認できたので良かった。
- ・余震、津波、施設設備の破損状況等、通常に戻すタイミングの整理が大切

になる。

- ・検証もできて、ちょうどいい予行練習となった。振り返りもできた。  
〈次年度の取組と今後に向けて〉
- ・学校の取組、教育活動について、見学や新聞などで発信していきたい。子どもたちや学校も知ってもらいたい。コロナが収まれば、地域にも出て活動を拡げていきたい。
- ・毎年、学校の取組をアップデートしていきたい。
- ・ネットワークの強化を大切にしたい。
- ・地域に感謝の気持ちを示していきたい。閉校式記念品に本校の製作品を配りたい。感謝の思いと次の学校への期待を表したい。
- ・地域小学校（上富田町）の児童に活動を発表するなど、小学生や先生たちに知ってもらう機会をつくっていきたい。

⑧ その他

- ・第3回学校運営協議会日程

● 「第2回県立はまゆう支援学校学校運営協議会」の様子

